



第98号

発行責任者

〒970-8003
 いわき市平下平窪字熊ヶ平6番地
 TEL (0246) 23-5311
 FAX (0246) 23-5312

はまぎく荘新聞編集委員会

● 紙面紹介 ●

- 1面 感謝
新職員達にエールを
- 2面 平成24年度事業
計画
- 3面 災害復旧工事完了
各棟親睦会
- 4面 お花見
新職員紹介

感謝

昨年は、震災と原発事故で桜を見るゆとりさえありませんでしたが今年、はまぎく荘の周辺の桜はとってもきれいでした。

あの3・11後は、あたり前の暮らしができないのではなにかと不安でした。こうして新年度を迎えることが出来たことは夢の様です。

多くの方々のたくさんの方々の支援を戴いたことに感謝申し上げます。

ありがとうございます。

新職員達に

エールを

この四月に新職員研修の講師になり話す機会が与えられ

ましたが、^{うま}旨く私の想っていることが伝わったかといつも過ぎてから悩む癖がある私です。そんな時、朝日新聞の「^{はちんちん}波聞風問」の記事に出会いました。

経営目標「いいクルマ」トヨタの挑戦というタイトルでした。

トヨタはリーマン・ショック後の三月期にたくさん赤字を出し、苦境に陥ったそうです。

創業家の豊田章男社長が就任し、「もっといいクルマ」地域社会への貢献」を経営目標としたこのビジョンはまだまだ、「きれいごと」では経営はできない」などの批判もあるようですが、豊田社長は、就任から三年間、「私が社内ですべてきたものは『もっといいクルマをつくらうよ』という言葉だけ」話します。そう

すると私達の仕事は、「障がいを持つ人にとってもっといい支援」をすればいいのだと。「いい支援や介護」は、働く職員のおのおのが考え生み出さなければいいのだから。

そうだったんだ。支援や介護のことにあんまり前のめりに話さなくても良かったと思いい直しています。

新職員の皆さん、元気に楽しく「もっといい支援や介護をつくらうよ」、改めてエールを送ります。

所長 涌井 常吉



平成24年度事業計画

次長 志賀道子

平成二十四年度がスタートしましたが、少し平成二十三年度を振り返ってみたいと思います。

東日本大震災、原発事故、余震等の恐怖と不安から思うように利用者さんのニーズに応えられなかったのが正直なところですが、でも、本当にたくさんの方々に助けられたことを実感するとともに感謝にたえません。施設整備面では震災で被害を受けたところの復旧工事を補助を受け実施しました。非常事態になった時に利用者さんに不安を与えないようにライフラインの設備は一番に考えなければならぬという思いから、自家発電設備工事を実施しました。直接利用者さんの生活に関連することについては、カーテンの全面取り換え、車いす用の体重計とふらつかないで安心して計れる体重計を購入しました。少しずつですが利用者さんも震災に負けず、前向きに歩む姿がうかがえます。

私たち職員も震災時のマニュアルの見直しをしながら利用者さんに安心・安全かつ快適な生活を送ってもらうために、住環境の整備や環境作りに努めてまいります。

さて平成二十四年度ですが、引き続き住環境の整備に努めることと職員一丸となつて利用者さん一人ひとりの権利を尊重した支援をすること、望まれるとすれば、利用者さんのQOLを高め、心豊かな生活につながるような配慮が必要だと思えます。高齢化・障がい重度化、多様化が進み、早期発見、早期予防に心がけると共に手厚い介護と支援に専門的役割を發揮して行かなければなりません。そのためにも日中活動の充実と豊かな生活の確立と施設が、風通しのよい職場であり、明るく楽しく働ける職場でありたいと考えています。

れる人材でなければなりません。職員としての自覚と使命感をもって良き支援者になれるよう努力したいと思えます。

住環境の整備については、食堂電気湯沸器の更新、施設周辺の環境整備、老朽化に伴う施設の修繕（給湯ボイラー修理・配管保温の張り替え工事等）や少しでも癒される環境作り（壁面の活用を工夫したり居室の模様替え、地域交流等）に力を注ぎたいと思えます。利用者や職員が変な仲間意識にならず常に新鮮で心が通った、温もりを感じられるはまぎく荘でありたいです。



三月十五日に「男子棟親睦会」としてバーベキューしました。肉が焼きあがり、大会が開かれました。少々皿に盛りつけられるとガツ曇り空で肌寒かったのですが、ガツと美味しそうに食べるが、『ビール飲めんのけ?』こと、食べることに。あつと『肉食べんだ!』『焼きそば!焼きそば!』と数日前から楽しみにしていた利用して、企画者としてはホッと者の皆さんはへっちゃらで、企画者としてはホッとしました。ただ風邪を引かれる、だったのはビール少なかつと大変なので屋外から作業 たね。来年ね!!

男子棟

各棟見聞録

災害復旧工事が完了 関係者に感謝!!

東日本大震災で被害を受けた高架水槽は、ひびが入り、せつかく溜めた水がだだ漏れしてこの時程『水が!!水が!!もったいない』と思ったことはありませんでした。当時断水が続いていたので高架水槽の水も途絶え生活するにはかなり不自由な思いをしました。それからみはま体育館のまわりの地盤沈下と地盤隆起がはなはだしく、体育館を利用するには危険な状態で地震のすごさをあらためて実感しました。両方とも早急に復旧しないことには始まらないと、補助事業で工事をすることになりました。

しかし、生活にはかせない『水』は、すぐに必要とされ、許可を待たずに工事に取いかかり、新しい水槽に入れかえられた。災害復旧の補助対象になつていたので結果的には国庫補助を受け完成しました。みはま体育館は、建物ではなく周辺の地盤の復旧工事のため今回の災害復旧費用国庫補助が受けられず、遠藤医療福祉助成財団助成金をいただいで工事をしました。建物は被害はなかったため、震災後、原発事故の影響で外での活動を控えなければならぬ事態を受け、体育館の利用は、今まで以上に増えました。地震による地盤の沈下や隆起が利用された方々の心に残つたようです。それもこれも、あれから一年半経つた今、お陰様で何不自由なく生活をする事ができます。謝します。

それから、東日本大震災の影響により被災地における障害者福祉サービスの復旧を支援する「社会福祉施設等設備災害復旧費用国庫助成」を受け、自家発電設備設置工事を実施しました。停電に備えて利用者さんにならないことを期待します。



各種親睦会

女子棟

女子棟の親睦会は、あつたかゝい、おいしい鍋三昧でした。ぎつしり身をつまつたカニの入つた海鮮鍋・高級牛肉の入つたすきやき鍋・ちよつぴり辛いチゲ鍋と、三種類の鍋を楽しみました。

三種類の味をすっかり味わう人、一つの鍋を何回もおかわりする人さまざまでしたが、みなさん、美味しかったです。

そうにはおぼつていません。その後は、良い香りのする入浴剤を入れての入浴タイム!! ゆつくりとあつたまりました。

お風呂から上がると、職員お手製のワッフルがまっています!! 喫茶店に入つたような豪華なデザートも楽しめました。



お花見



しようと決めました。ところが、まだまだ復興とは名ばかりで、遊具が休んでいるどころか坂道も封鎖され、車イスでは全く登れる状況ではありませんでした。つぼみが丸く膨らみ、三分咲の桜が静かに風に揺れていました。

当日は、石森フラワーセンターに予定を変更して出発です。とても暖かい静かな日で、昨日までの分厚いコートを脱いで、身も心も足どりも軽やかにバスに乗り込みました。フラワーセンターでは、ハイビスカス、バナナ、パンジー、ハンカチの木などを見ながら自由に散策し、おしゃべりやおやつを楽しみました。美しい景色、おいしい空気は待ちに待ったお弁当です。子歙倉神社の境内を

お借りしました。神社は心を落ち着かせる何かがあるようです。満足した笑顔の花が満開になりました。昨年の分まで楽しもうと、次は白水阿弥陀堂へとバスを走らせました。車窓からの春の日射し、木々の輝き、がらばっているいわきを見ながらです。阿弥陀堂も修復中でしたが、庭で桜もちをいただきながら、まったりと春の風と戯れ、英気を養いました。

「花より団子」というより「花も団子も」と欲ばった一日でした。震災から一年余り、まだまだ復興の途中です。元気に明るく、一歩一歩、みんなで力を合わせてがんばれば、今まで以上に住みやすい、きれいな海と美しい山、思いやりのあるいわきになると思います。はまぎく荘

して自分与えられた仕事をきちんとする事で、みなさんの役に立てればなと思います。どうぞ宜しくお願い致します。

新職員紹介



支援員 関文香さん

四月二日よりはまぎく荘の支援員として働かせていただくことになりました。関文香です。今年から新社会人としての生活がスタートし、緊張と不安な気持ちがありますが、一つ一つ前向きに覚えていけるよう頑張



事務補助 高木早苗さん

二月一日より事務補助として勤務することになりました。高木早苗です。利用者さんとは直接ふれあう機会は少ないですが、事務職と



送迎業務 矢吹久江さん

年明け、一月四日より、朝夕の在宅の利用者の送迎業務をしております。自宅ははまぎく荘より徒歩二十分、年齢は荘の利用者の皆様の平均年齢とほとんど同じの平窪の住人です。数年前には当時学生だった息子が荘

の利用者の皆様もがんばっていただきます。これからも、よろしくお願致します。



どうぞお元気で！

鈴木政法さん

平成二十四年三月三十一日付で、鈴木政法さんが、はまぎく荘を退所し、生活援助・生活介護コーポおこなに巣立って頂きました。グループホームでも楽しい生活を送って下さい。

で夜勤のパートをしており、親子二代に渡りお世話になることになりました。業務や荘の雰囲気には慣れてきたものの、荘での滞在時間が短い為、利用者の皆様のお名前と顔が覚えられないのが現在の悩みです。早くすつとお名前が呼べるようになってほしいと思っています。どうぞ宜しくお願致します。

ようこそおねがいます

立野淳子さん

平成二十四年四月一日付で立野淳子さんが、はまぎく荘の新しい仲間となりました。すぐに打ち解け、今では立野さんの笑い声が聞こえない日はありません。よろしくお願致します。

私のホントのとき

彼はいつも顔を隠しながらお菓子を食べている。たまに「お菓子がいいアッ」と言うと、ニコニコしながら口に入れようとする。いつも忙しく、ゆとりのある時間が少ないので気持ちも安らぐ一時なんです。

編集後記

新聞「はまぎく」をお読みいただき、誠にありがとうございます。昨年、東日本大震災に見舞われながらも、今、はまぎく荘は、とても元気に活動しております。

さて、今号より編集交代となりました。不慣れながらも皆様の御協力があった、ここまで出来ました。これからもよろしくお願致します。

個人情報

平成十七年四月一日施行の個人情報保護法に基づき、写真は本人等の了解のもと掲載しております。